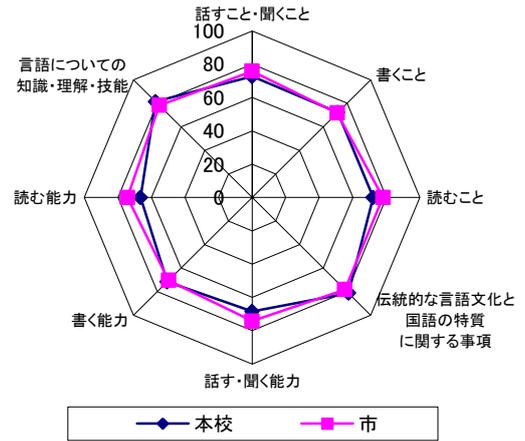


宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	72.6	75.9	71.7
	書くこと	72.2	71.8	73.2
	読むこと	72.2	78.0	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.2	78.2	79.4
観点別	話す・聞く能力	68.5	74.2	70.8
	書く能力	71.6	70.4	71.0
	読む能力	66.6	74.3	75.0
	言語についての知識・理解・技能	81.4	78.2	79.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

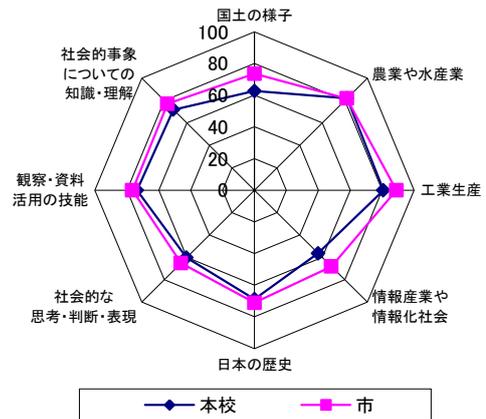
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・校内正答率が72.6%で、市の平均を3.3ポイント下回っている。 ●「司会者の役割を理解して、計画的に話し合えることができる。」の校内正答率は、市の平均との比較で11.8ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実態に寄り添った話題を取り上げ、話し合いに必然性を持たせるなどの工夫をするとともに、司会者や発表者などの立場や意図を明確にして、話し合いができるように指導する。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・校内正答率が72.2%で、市の平均を0.4ポイント上回っている。 ●「与えられた情報を読み取り、安全マップの修正する箇所を理解することができる。」の校内正答率は、43.6%と20.4ポイント市の平均を下回っている。 ○「グラフから読み取った事実を書くことができる。」の校内正答率は、88.5%と10.2ポイント市の平均を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から、国語以外の教科でも自分の考えを文章で表現できるよう、意識的に機会を作っていく。また与えられた条件で、要点をとらえて表現できるような取組を行い指導の充実を図る。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・校内正答率が72.2%で、市の平均を5.2ポイント下回っている。 ●「文章の内容を的確に読み取ることができる。」の正答率は66.7%と10.8ポイント市の平均を下回っている。 ●「目的に応じて、文章の内容を的確に読み取ることができる。」の正答率は64.1%と13.2ポイント市の平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の物語文や説明文を活用して、読み取りの力を付けていく。また、接続詞やその役割、段落ごとの要点や段落構成を学ばせることで、内容を的確に読み取る力や構成を押さえる力を高めていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・校内正答率が81.2%で、市の平均を3.0ポイント上回っている。 ○5年の漢字の読み・書きでは、市の平均とほぼ同じか上回っていたが、6年の漢字の読みでは、市の平均を下回るものもあった。 ●言葉の学習の「敬語(尊敬語)の使い方を理解している。」の正答率は、56.4%と市の平均を13.3ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字については、特に6年の漢字を繰り返しドリル学習等で継続指導し、定着を図る。 ・敬語については、グループ活動を取り入れ、話し手と聞き手の両方の役割を体験することで力をつけていく。また、場面設定を工夫することで、日常生活の中でも場に応じた言葉遣いや話し方ができるよう指導していく。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	62.6	73.6	76.2
	農業や水産業	82.1	81.9	77.5
	工業生産	80.8	88.9	83.4
	情報産業や情報化社会	56.4	68.2	61.0
	日本の歴史	68.9	71.1	70.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	60.2	65.1	62.1
	観察・資料活用技能	73.7	76.5	75.2
	社会的な事象についての知識・理解	71.9	77.1	76.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

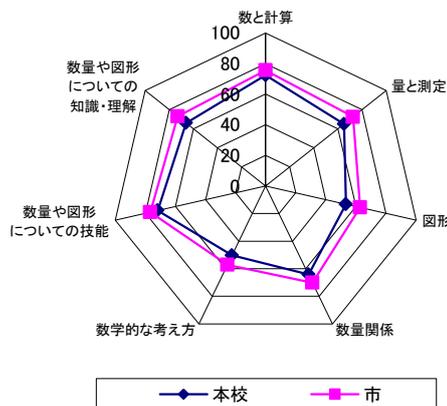
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・校内正答率は、市の平均を11ポイント下回っている。 ○日本の地形の概要についての正答率が79.5%と市の平均と比較して1ポイント上回っている。 ●日本の周辺の海洋の理解の正答率が51.3%と市の平均と比較して27.5ポイント下回っている。 ●公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さを考える校内正答率が、市の平均と比較し 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球儀や地図帳を活用して、日本の周辺の海洋と国の名称と位置を関連付けて理解できるよう指導する ・四大公害病を中心として、公害が国民の健康を脅かした理由や環境保全を考えて国土を開発していかなければならないことについて、ノートや新聞等にまとめて復習していくよう指導する。
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> ・校内正答率は、市の平均を0.2ポイント上回っている。 ○日本の主な食料生産物の分布に関する資料の読み取りの校内正答率が、市の平均と比較して4.4ポイント上回っている。 ●食料の中に外国から輸入しているものがあることを示す資料について考える校内正答率が、市の平均と比較して3.9ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の食料生産に関する地図や資料を読み取る作業を継続させたり、外国産の食料についてインターネットや図書資料を用いて調べる学習を取り入れたりしていく。
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> ・校内正答率は、市の平均を8.1ポイント下回っている。 ●様々な工業製品が国民生活を支えていることについての理解の校内正答率が、市の平均と比較して12.2ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重化学工業や軽工業の生産量と関連付けて、日本の工業地帯や工業地域の特色について地図を用いてまとめるよう指導する。
情報産業や情報化社会	<ul style="list-style-type: none"> ・校内正答率は、市の平均を11.8ポイント下回っている。 ●情報ネットワークと国民生活の関係についての校内正答率が、市の平均と比較して12.7ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会における情報産業の重要性や利用の仕方、図書館などの公共施設における情報ネットワーク利用を調べて、情報化社会について考察するよう指導する。
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・校内正答率は、市の平均を2.2ポイント下回っている。 ○聖武天皇に関する問題についての校内正答率が市の平均を9.9ポイント、大日本帝国憲法の特色についての校内正答率が市の平均を6.6ポイントそれぞれ上回っている。 ●キリスト教伝来に関する校内正答率が市の平均より8.9ポイント、国学や蘭学についての校内正答率が市の平均よりも6.5ポイントそれぞれ下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平安時代から明治時代までの史実や歴史上の人物については今後も系統的に指導していく。戦国時代から江戸時代までの諸外国との関わりや文化については、時代背景と関連づけて理解できるよう年表や新聞などにまとめることを指導する。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.4	75.6	75.8
	量と測定	65.0	72.5	71.2
	図形	53.3	62.8	71.0
	数量関係	64.1	70.1	66.0
観点別	数学的な考え方	50.3	57.2	52.7
	数量や図形についての技能	71.9	76.7	74.1
	数量や図形についての知識・理解	66.1	73.0	77.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

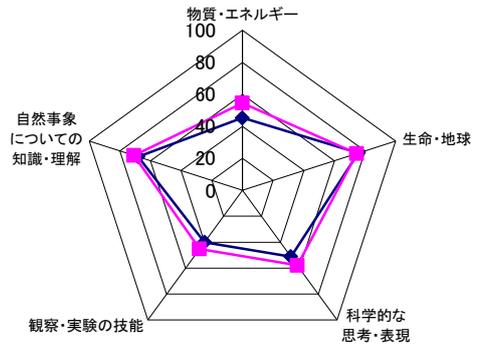
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ・校内正答率は72.4%で、他の領域より高い。 ○計算全体では市の平均を下回るものの、4月の全国学力調査の結果と比べて差が縮まっている。特に、分数の乗法・除法においては共に97.4%であり、市の平均を6.3ポイント上回り、当該学年の学習内容がしっかり身に付いていることがわかる。 ●図を使って、分数の除法の文章問題に合った式を選ぶ問題の正答率が30.8%と低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の定着を図るために、基本的な計算の定着に向けた繰り返し練習を継続していく。また、小数や分数が含まれたかけ算や割り算の式の計算など、発展的な問題を解決する力も身に付けていけるよう指導の充実を図る。 ・文章題において、要点をおさえ、図や式に表しながら見通しを持って問題に取り組ませられるよう指導する。そのために、授業の中で、特に数直線に表したり、数直線から読み取ったりする活動を積極的に取り入れ定着を図る。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ・校内正答率は65.0%で、市の平均を7.5ポイント下回っている。 ○4月の全国学力調査では正答率の低かった単位量当たりの大きさに関する問題では、全国の平均よりも10.6ポイント上回った。身の回りにある問題を様々な考え方で解決する活動を多く取り入れたことで、単位量当たりの考えを深く理解することに繋がったと考える。 ●「速さと時間から道のりを求める」問題の校内正答率が市の平均より24.5ポイント下回っている。また、三角形や台形の面積を求める問題に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・速さと時間から道のりを求めた後の単位換算をするときに、誤答が多く目立った。速さだけでなく、時間や距離などの様々な単位の意味を十分に理解させ、単位をかえて表す問題に普段から積極的を取り入れ定着を図る。 ・三角形や台形の面積を求めるために必要な底辺や高さに該当する辺は、長方形やそれを等積変形した平行四辺形の求め方を利用して、公式を正しく理解できるよう指導する。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ・校内正答率は53.3%で、市の平均を9.5ポイント下回っており、他の領域より差が大きい。 ○図から多角形の内角の和を求める式を選ぶ問題では、市の平均を10.7ポイント上回っている。また、合同な三角形の作図も良く理解している。 ●「円の直径から円周を求める式を選ぶ」問題の校内正答率が20.5%であり、市の平均より25.8ポイント下回っている。また、対称な図形に関する課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにある円の直径と円周の長さを測る活動を通して、円周率についての理解を深めるとともに、直径と円周の長さが比例関係にあることを実感できるような問題を多く取り入れて、定着を図る。 ・対称な形について観察したり具体的な活動をしたりして、線対称や点対称の性質や描き方の習熟を図る。また、線対称と点対称を関連づけながらそれぞれの特徴をより深く理解できるよう指導の充実を図る。さらに、対称性という観点から基本的な図形を見直す活動も取り入れ、知識の定着を図る。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ・校内正答率は64.1%で、市の平均を6.0ポイント下回っている。 ○「比例の関係をxとyを使って式に表す」問題では、市の平均を0.7ポイント上回っている。 ●「比の値を使って、必要な量を求める」問題では正答率が20.5%と低い。求める式の誤答が多く、比の値についての理解に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で比が使われているものを探したり、比を活用して課題を解決したりする活動を積極的に取り入れることで、比を使って考える良さを感じさせ、知識の定着を図る。また、読み取った必要な情報を図や文で表し、友達に伝え合う活動を取り入れ、説明する力の習熟を図る。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	45.3	54.6	57.5
	生命・地球	75.6	74.5	75.4
観点別	科学的な思考・表現	51.2	58.0	59.6
	観察・実験の技能	40.0	45.3	50.6
	自然事象についての知識・理解	67.9	70.7	72.4



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。

● 本校 ● 市

★指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 校内正答率は、45.3%で市の平均を9.3ポイント下回っている。 ○物の燃え方の「七輪で炭が燃えてときの空気の流れがわかる」については、校内正答率が94.9%と十分定着が図られている。 ●ふりこのきまり、物のとけかた、水溶液の性質を求めることについては課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ふりこが一往復する時間は、おもりの重さなどによって変わるのではなく、ふりこのながさによって変わることを理解できるように指導し、定着を図る。 ●物の溶け方は、物を水に溶かし、水の温度や量による溶け方に違いがあることを重点的に指導する。 ●水溶液には、酸性、アルカリ性、中性があり、それぞれの性質を調べたり、それぞれの水溶液の性質を理解できるように指導したりし、定着を図る。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> 校内正答率は、75.6%で市の平均を1.1ポイント上回っている。 ●植物のつくりとはたらきの「光合成についての対照実験の結果からわかることを説明できる」については、校内正答率は43.6%で、市の平均より18.1ポイント下回っている。 ●月と太陽の「新月のときの太陽と月と地球の位置の関係がわかる」については、校内正答率は69.2%で、市の平均より11ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●植物のつくりとはたらきは、植物に日光が当たると空気中の二酸化炭素を取り入れ、酸素を出すことを重点的に指導し定着を図る。 ●月と太陽については、地球から見た太陽と月の位置関係によって月の見え方が変わることを理解できるように、観察とモデル実験を積極的に取り入れ指導する。